

## 和文化の継承！

現代的に解釈すると床のある和室にある約束を持って飾ることの意。

床のある室礼（しつらい）は平安時代寝殿を設える（しつらえる）という言葉から派生し室町時代に床の間が出現し儀礼的な装飾をするようになり「室礼」という文字になりました。



清閑亭 {小田原}

「和」という漢字は、“落ち着く” という意味のある「なごむ」や「やわらぐ」という言葉にも用いられています。

そんな漢字で表される日本には、数多くの「なごみ」が存在します。

私たちの疲れた心を癒し、なごませてくれる「和」の世界を創出します。

いけばなは日本人が古来より愛して来た植物（風興）を、美に昇華させることです。

和することは、お互いの多様性を認め合うこと、それがいけばなです。



～beyond2020 プログラムは日本文化の魅力を発信する  
2020年以降を見据えたレガシー創出のための文化プログラムです～

毎年、秋に「和文化・室礼展」の開催を清閑亭にて行っています。

日本の文化の継承！  
座敷飾りへ室礼を考える！

床飾（とこかざり）ともいう。

平安時代の貴族の住宅形式であった寝殿造を母体とし、中世における生活様式の変化のなかで、日常の生活機能を充足するために変容と改良が加えられた。室町時代初期ごろ、座敷飾の諸要素（押板（おしいた）、棚（つげ）書院）が出そろい、同時代中期の応仁の乱前後の時期に盛行した会所座敷の飾りに、押板、棚、付書院を組み合わせて装置し、置物を飾る風習が成立した。この座敷飾は中世末までに会所の枠をこえて住宅の主座敷を飾る方式として定着した。

京都では「町屋」として新しい空間として創作され、今の時代に生かされています